

## 第7回 山陽小野田市子ども・子育て協議会

1. 開催日時 平成26年7月15日 (火) 18時30分～21時00分

2. 開催場所 山陽小野田市役所 3階 大会議室

### 3. 出席者

【委員】(敬称略)

藤川藍、加藤善成、渡辺和行、竹田佳枝、高場真澄、吉田由美子、  
平山正男、波多野昭世、秋本和美、伊藤一統、平野強、塩田賢二、富田輝美

【事務局】

今本教育部長、河合健康福祉部長、西田こども福祉課長、金子こども福祉課主査、  
こども福祉課職員(大江、木藤)

【コンサルタント】

榎ぎょうせい 木下、濱崎

### 4. 議事次第

① 開会

② 議事

(1) 量の見込み及び確保の内容(補正等)について(説明)

(2) 事業計画骨子案について(説明)

(3) ○「基本理念(キャッチフレーズ)」

○「山陽小野田市子ども・子育て支援の課題」について

各委員からの提案

(4) 条例制定に関する報告

① 家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例

② 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を  
定める条例

③ 放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例

④ 山陽小野田市保育の実施に関する条例(廃止)

(5) 今後のスケジュール

③ 閉会

### 5. 配布資料

資料1 量の見込みの補正等について

資料2 事業計画骨子案

資料3-1 家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準

資料3-2 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準

資料3-3 放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準

資料3-4 山陽小野田市保育の実施に関する条例

資料4 本格施行までの自治体における作業スケジュールイメージ

6. 傍聴者 0人

## 7. 議事要旨

### (1) 量の見込み及び確保の内容（補正等）について（説明）

○コンサル

資料1について説明。

○会長

一通り、説明をいただいたので質疑を受け付けたいと思う。

○委員

意見・質問なし。

○会長

国の定めた基準に基づいての調査結果を元に、計画を立てていくので、実績と見込みに差が出るのは仕方のないことだと思う。実際は色々なことが考えられて、ショートステイなどは認知度がどれくらいあるかも問題である。これから周知を計れば利用が伸びてくる可能性もある。今の実績と見込みの数値にこれだけの差があるのは、その辺りの問題かもしれない。これから、施策としてどういう方向性で持っていくかで、数字は大きく変わっていく可能性もあると思う。

一応、国の基準に基づいて見込みを出したのだと思う。委員のみなさん、この内容についてはよろしいだろうか。

○委員

承諾

### (2) 事業計画骨子案について（説明）

○会長

では、議題の2に移る。事業計画骨子案について、説明をお願いします。

○コンサル

資料2について説明。

○会長

今の説明に関して、意見・質問はあるか。

○委員

まず、教育保育施設の状況というところで、保育所のことについては全部挙がっているのだが、幼稚園は一切挙がってきていないことについては何か意図があるのか。

また、24ページの教育保育施設の充実のところ、急に「幼児・児童の体質等にあった食事等への配慮」と出てくるのはなぜなのか。もちろん大事なことなのだが、急にでてくるところに何か思うところがある。

それと、30 ページの子育てと仕事の両立支援の 2 行目だが、父親と言う言葉は、いらないのではないか。育児休業は母親がとる場合もある。

最後に、34 ページの日頃の幼稚園・保育所の選定理由で「幼稚園等の経営方針」とあるが、もちろん幼稚園さんは一生懸命に経営方針を持たれてされているのだが、保育園としても経営方針を持っているので、保育園の文言がなく、幼稚園とだけ強調されるのは残念に思う。

○会長

今日ご説明いただいた骨子案はどの程度議論の対象にしていものなのか。こんなかたちになります程度でいいのか。中身の議論はあまりしない方がいいのか。

○コンサル

課題や、基本理念についてはご意見をいただきたいと考えている。

○会長

スケジュールを確認したい。骨子案はいつまでにどういうプロセスで固めるかというのを確認したほうがいいと思う。資料 4 のスケジュールの中に骨子案のことはないが、どうにかたちで決めていくのか。

○コンサル

これから調整しなくてはならない。私たちの考え方としては、今の段階では課題のところや、基本理念・キャッチフレーズ等の意見をもらう機会にしたいと思っている。それを基に肉付けしていき、素案として次回の協議会で提示させていただきたいと思う。

○委員

素案が出来上がってから、内容の審査に移るということか。その後変更するというのは当然あり得るのか。そうすると、キャッチフレーズなどの部分だけの議論でその他のところの内容などの議論は今回しないということなのか。

4 ページの策定体制のところ、「費用の使途実績の調査や事業の点検評価」について山陽小野田市子ども・子育て会議で調査審議したと書いてあるが、特にまだ審議していない。これからこういう内容については審議していくということでもいいのか。

また、29 ページの基本的視点と主要施策の方向のところ、「さんようおのだ子育て元気プラン 2010」の基本目標が 6 つとなっているが、基本目標は 5 つだったはずである。骨子案では、1 つ新たに追加して目標が 6 つ提示されているが、この辺りの整合性なども含めて、今後検討していくということでもいいのか。

○事務局

4 ページの策定体制のところだが、たしかにこの部分はまだ審議していない。これから、どういったかたちで盛り込むかについては、もう一度事務局の方で協議し、お知らせしたいと思う。

29 ページの次世代の関係についてだが、子ども子育て事業計画が引き継ぐということになっている。(2)母子保健の継続的な取組による健康の増進を目的とした母子保健計画というのもあり、事業計画に盛り込んでほしいという意見もある。これも、肉付けした後みなさんに提示できれば良いと思う。

○会長

支援事業計画自体にこの会議がどの程度関わるのか、この会議が考えるのか、会議の意見を基に事務局側が考えるのか、その辺りの確認をしたい。プロセスとして、この協議会が原案を作ったことになるのか、意見を聞いて別のところが作ったことになるのか教えていただきたい。

○事務局

この会議でいただいた意見を尊重しながら作っていくという風に考えている。

○会長

そうすると、次回かなり素案に関してみなさんから意見をいただけそうである。

もう一つ確認したい。総合的な計画となっているが、総合的でないといけないのか。とりあえず量の部分だけ出すなどでは駄目なのか。今ニーズ調査をして、それに関しての量的な計画を建てることに絞ってはどうか。本当は、月に3回くらいのペースでこのような会合を開かなければスケジュール的に間に合わない。現実的なことを考えれば、案を事務局の方で作っていただき、それに対して若干の意見を言う程度くらいしかできないと思う。ただ、委員会を構成している意味というのが希薄化してしまう。みなさんはどうお考えか。

○委員

私もこの会議に何回か出席しているが、いつも未消化のまま帰る。何故かと考えると、具体的な方策が何一つ出てきていないというのがある。確かに、数字であるとか量の見込みは計算された通り出ると思うが、計算で出た数字に対して、意見はあるかと問われても私たちは恐らく答えられない。今出た量の見込みも、妥当な線だろうと思う。私たちがこの会議に出る意味というのは、量的な見込みが出されて、そこから5年間の山陽小野田市の子ども子育ての方策を、市民目線で考えていくというものだと思う。残念ながらこれまでの会議で、具体的な方策を問われるようなことはなかった。これから私がこの会議に期待することは、各事業に対して、大きな括りで部会に分かれてそれぞれ詳しい方々で集まっていただき、素案というか叩き台を作ってもらい、それをこの会議に持ち寄って意見をいただくというのが良いのではないかと思う。

○委員

今までの会議の中で、わからないことばかりで実際に発言することもなかった。今回のキャッチフレーズや課題についてであれば、今までの自分の経験の範囲で話すことができると思う。

今言われたように、部会ごとに分かれて議論を進めたほうが良いと思う。委員の意見がどこかに反映されるとなれば、また違った取り組み方になっていくと思う。

○委員

事前にキャッチフレーズの案を提出していたので、今回の会議の場で、委員のみなさんの案を資料としていただきかった。

○事務局

いただいた意見は、最もだと思う。非常にタイトなスケジュールの中で、議論いただいている。骨子案を根底から全部変えていくというのは難しい。部分的な意見をいただきながら、より分かりやすいものにできたらと思う。

本日は、自由な意見をいただきながら、次回までにはそれをまとめ、作り上げて提示したいと思う。

○会長

議題の順番が前後するが、先にスケジュールを説明していただき、続いて議事(4)についても説明いただこうと思う。

**(4) 条例制定に関する報告**

○事務局

資料 3-1、3-2、3-3、3-4 について条例制定の説明。

**(5) 今後のスケジュール**

○事務局

資料 4 について今後のスケジュールを説明。

○会長

スケジュールとこれから定めなければならない条例案について説明していただいたが、条例案については国の素案をそのまま持ってくるという形なので議論の余地はない。スケジュールをご覧いただいたらわかるように、期限が決まっているので、なかなか計画等について議論を重ねてということはし難い。ご意見を出していただき、それを踏まえた案を作り、そして議論していくという流れにせざるを得ない。個人的にはしっかりやりたいところではあるが現実問題時間をかけるのは難しいと思う。

○委員

骨子案についての意見だが、8 ページの教育・保育施設の状況のところ、①保育所の状況はあるが、②として幼稚園の状況がない。どうなっているのか。

○事務局

今回の8 ページのものは保育園の資料であり、今現在こども福祉課では幼稚園の資料を持ち合わせておらず、保育園だけを掲載させていただいている。この資料のまま計画に盛り込むということではない。一つの案として示させていただいている。幼稚園の資料が揃えば、それも掲載させてもらおうと思う。

○会長

今日の案は、こういう体裁になりますよという確認でいいと思う。この骨子案について、細かくチェックするのはあまり意味がないと思う。大まかな項目だとか、課題と思われる意見を出していただければ良いと思う。

骨子案等にこれを入れるべきだというものがある方は意見をいただきたい。

○委員

31 ページのところに、安全・安心まちづくりの推進とあるが、昨今若者を中心に問題になっている、ドラッグに関する問題も盛り込んでいただけたらと思う。

○委員

30 ページの子どもの健全育成のための教育環境の整備のところ、子どもたちのスマートフォンやゲーム、パソコンへの依存の問題なども組み込んでいただけたらと思う。

○コンサル

検討したいと思う。

○会長

山陽小野田市は、教育計画を持っていないのか。

○事務局

国が定めている教育基本計画というのは持っていない。しかし、学校は学校で、学校教育の指針というまとめたものを持っている。社会教育関係では、社会教育計画というのは毎年作っている。総合的な教育全体の計画というのは現在持ち合わせていない。

○会長

いずれにしても教育関係・健康関係・障害関係など多課に渡り全部を網羅するような計画になってくると思うので、そういうものが可能であれば、ご意見を自由に出していただいて、それを反映した案としてまとめていただけたらと思うが、どうだろうか。

○事務局

根底からというのは少し難しいが、考えていけたらと思う。

○会長

個人的な心配として、計画に盛り込んだ以上は、これが根拠となって実行されなければならない。実行していないではないかという問題に後々なりかねないが、好き勝手意見は出しても良いのか。

○事務局

出てきたものを全部、盛り込んでいくというのは難しい面があると思う。

○事務局

委員のみなさんは、各分野のエキスパートであり、それぞれの分野について専門的知識を持って意見できると思う。どんなかたちでもよいので意見をさせていただきたいと思う。そこから選んで、事業案に掲載させていただこうと思う。

○委員

今回の協議会で、自由記述について回答いただけると伺っていたが、出て来ていない。いかがなものかと思う。

○事務局

今回、出さなければならなかったのを忘れていた。申し訳ない。後日、各委員にはお示しするのでご確認いただきたい。

### **(3) 基本理念（キャッチフレーズ）・山陽小野田市子ども・子育て支援の課題について**

○会長

山陽小野田市として、子育て支援はどういう方向性で、どういう街づくりをしていくのか、今後の議論の参考にお話いただきたい。山陽小野田市はこういう点で子育てに特徴があるといったものはないか。

○委員

宇部市や、山陽小野田市は、学校が多いという印象がある。学校が多いことを生かした何かができないかと思う。

○委員

母子保健の関係だが、山陽小野田市マタニティブックスタートというものがある。妊婦さんが、母子手帳を保健センターに取りに行く際に、絵本をもらえるというものである。赤ちゃんがお腹の中にいるときに、母親が赤ちゃんに向かって本を読むという主旨のもと始まったものである。これは山陽小野田市の特徴であり、他の市にはなかなかないものだと思う。

#### ○事務局

他市はブックスタートというものはあるが、マタニティブックスタートというものはない。胎児のときから本を読み聞かせるというのを山陽小野田市が始めたというのを聞いている。胎児のときから本に勤しんで親子の関係をつくるのは山陽小野田市の一つの特徴だと思う。

#### ○委員

子どもにとって3歳までは親の元で育てることが大事だと思う。男女共同参画ということで、女性が働きに出るというのも大事だとは思いますが、3歳までは、1対1の保育というものが大事だと感じている。この協議会の主旨と逆行するようなことを言うが、この点についての対策も求める。

#### ○委員

現実に0、1、2歳で保育園に行っている子どももいるわけで、小さいときから保育園に通って、集団生活に慣れることは素晴らしいことであるという意見もある。みなさんの思いで、それぞれの幼稚園や保育園を選ばれることについては、とやかく言うつもりはないが、保育園に通っている子どもが可哀相であるというようなことを認めるわけにはいかない。思いは思いであると思うが、子ども子育て協議会での意見としては適当ではないのではないかと。

#### ○会長

本市の子ども子育て協議会のメンバーに小規模保育関係の方がいない。条例で家庭的保育等の条例案が出ているが、これに関して意見を言うてくださる方がいない。

保育所というのは19人以下では成り立たない。今回、国の施策での大きな特色としては、小規模保育や家庭的保育の制度が整備されたということがある。山口県として本格的に導入しようという話にはならないと思うが、一応そのあたりも頭の片隅に置いていただくと、1対1の保育の場合にはそのような選択肢もあると提示できる。

#### ○委員

学校教育ではモジュール授業というのをやっている。子どもたちにとって、よい方向にいていると思う。

#### ○事務局

生活改善学力向上ということを目指していて、小学校中学校において、毎朝10分程100マス計算だとか、先生が声を出し子どもたちが一緒に音読をするなど、学校に朝行くと非常ににぎやかである。そういう日常的な風景が山陽小野田市の学校には見られる。朝、集中して取り組むことによって、脳が活性化されると言われ、子どもたちの集中力が増すということで毎日そういうモジュールを行っているのは山陽小野田市の特徴である。



## ○委員

12 ページの児童クラブの利用人数の表の数値について、疑問のある数値が並んでいる。次回までには、正しい数値で示していただきたい。

## ○委員

労働者の代表ということで出席しているが、24 ページ教育保育施設の充実というところで、教諭や保育士等人材の質・量の確保とある。人材の確保をするのは良いが、量だけ増やすのではなく雇用条件などもきちんと整備して見直してほしい。

もう一つ、子どもを預けるときに何年保育にするかというニーズが出ているかと思う。何年保育にするかの理由が、保育料が高いので保育期間を減らすといったものがあると思う。本心から2年保育というニーズが出てきているのか、保育料が高いので仕方なく2年保育にしているのか、このような点もどうか、骨子案に盛り込んでいってほしい。

また、保育料の滞納のことだが、滞納している人がいるのに成り立っているのはどういうことなのか。補填されて成り立つなら、補填ではなく支援というかたちで保育料を下げられるのではないか。現実的にこのような滞納があるのに成り立っているというのは課題の一つだと思う。

## ○会長

今のような意見について議論を深めていくことが、国が市町村レベルに権限を移行することの狙いだと思う。全国一律の保育の基準でやってきたものを、市町村ごとに違いが出てよいとするのが狙いである。しかし今回そこまで山陽小野田市独自のものを行うというのには時間的には無理である。スタートした後で考えるのが良いのではないかと思う。

少子化ということで、出生率を上げるために出産奨励金などを設けているところもある。山陽小野田市として、どういう方向性で子ども子育てを考えていくのかというものになる。今回の骨子案は、かなり具体的になっていて、もっと抽象的なものでも良いのではないかと思う。他市のものを見ても、もう少し抽象的なレベルで止まっているところも多い。そのあたりも合わせて検討していただきたい。

## ○委員

骨子案の中には、多分こうした方が良いだろうということがたくさん書いてある。しかし、本当にこれをどうするのかというときに、親に手伝ってくれと真っ先に言われる。そうなってくると、子育てというより、手伝うために子どもと向き合えないということになる。

量の拡充・充実などいろいろ書いてあるが、実際最後には親の方に振られて子どもと過ごす時間がなくなっていく。本当に抽象的なものにしていかないと、直接親に負担がかかってくる。最終的には、子どもと一緒にいろんなものに参加できるようなものの方が、子ども子育て支援になると思う。

○委員

個人的には私も、働く親のための支援ではなく、子どもが親子でゆっくり、家庭で過ごせる時間をとれるような支援を考えていただきたい。しかし、保育園でもしっかり愛情を持って保育をしていただいていると思うので、難しい問題だとは思う。

保育士の労働条件なども厳しいものがたくさんある。保育者などを養成しているが、条件などもしっかりと考えていただきたい。いろいろ議論すべきところはあると思うが、先程言われた通りスケジュールを考えると、抽象的なものにとどめて議論を行っていくべきだと思う。

○委員

預ける環境について、私個人の話、本当は児童クラブに預けたいところだが、実家が隣にあるため、本当に必要とされている方に悪いと思い、入所させるのをやめている。預ける場に空きがあるのであれば本当は預けたい。

今から、児童クラブや保育所の増設など、お金がかかることに関してどこまで本当にやっていくのかと疑問に思っている。

○会長

今日は協議会が発足してから初めて、みなさん全員の声を聞くことができた。参画している意識が働くというのはみなさんのアイデンティティが加えられるきっかけにもなるので大事にしていきたい。次回、この雰囲気を引きずっていただいてしっかり協議をしていただきたいと思う。最後に事務局から次回の協議会の日程確認をお願いする。

○事務局

第8回の協議会は、平成26年9月1日（月曜日）18：30からを予定している。

○会長

以上で本日の協議会を終了する。